

のです。

大正時代の中ころからは、世の中が不景氣ふけいきで会社を小さくしなければならぬ時もありました。その時には石材を粉こなにしてみがき粉こを作るなどしてくふうしました。

正治は、荻野地区に2ヘクタールの田畑かいこんを開墾するなど、農業の面でも努力しました。

正治は、昭和17年から26年まで、第二次世界大戦中だいじせかいたせんちゆうや戦後のこんな時代に、村会議員そんかいぎいんとして村の発展はってんのためかつやくしました。

大正12、3年ころには、石材を運ぶはこために、アメリカ製せいのトラックを買って使いました。当時は馬や荷車にぐるまで物を運ぶ時代で、自動車は大変めずらしい物でした。タイヤは空気の入っていないかたいゴムのタイヤだったということです。

このように、正治は、いつも新しいことをこころみるなど、計画的で行動的な人でした。